



ものづくりインキュベーションセンター 入居者審査委員会 開催報告

令和2年10月30日(金)に開催しました当機構入居者審査委員会により、延長申込企業2社と、新規入居申込1社の入居が決定いたしました。

【延長】

支援室No.	企業名・代表者	研究開発内容	入居期間
8	株式会社プロトンシステム 代表取締役 緑川 勲	アルミニウム一次電池の研究開発	令和3年1月4日～令和4年1月3日
10	株式会社 Fu-Tech 代表取締役 高山 正文	機械装置の開発、設計、製造、販売 菊芋を使ったサプリメントの開発	令和3年2月1日～令和4年1月31日

【新規】

支援室No.	企業名・代表者	研究開発内容	入居期間
7	株式会社ハンドレッド 代表取締役 栢本 直行	1. 実験用・研究用器材の開発・製造 2. 人用・動物用機能性食品の開発・製造 3. 一次産業の六次化産業創出	令和2年12月1日～令和3年11月30日



福内審査委員長挨拶



プレゼンテーションの様子



審査の様子

REIF ふくしま2020出展報告

令和2年10月28日(水)、29日(木)に開催された第9回ふくしま再生可能エネルギー産業フェア(REIF ふくしま2020)に当機構も出展しました。本ブースにおいて、当機構の事業案内や入居企業である株式会社プロトンシステムの「アルミ発電機・水素発生デモ器」を展示しました。特にアルミ発電機は優れもので、大手通信事業者・売電事業者など興味を示し商談に進むなど多くの人の興味を引き付けました。一方、日本大学工学部で開催した「新☆エネルギーコンテスト」に出展した2つのアイデアポスターを展示、アイデアを提案した学生が企業の方々の提案に対する質問や意見に対し、考えを述べながら、改善点などのアドバイスに耳を傾け、新たな知識を得られるなど有意義な時間を過ごすことが出来ました。

当機構では、再生可能エネルギー・医療機器製造・情報通信など産業界の「モノづくり」に取り組む企業の支援に努めてまいります。



アルミ発電機を説明する
株式会社プロトンシステム緑川社長



提案した内容を説明する
日本大学工学部の学生

第8回健康医療福祉産業創生フォーラム開催報告

令和2年11月4日(水)に、第8回健康医療福祉産業創生フォーラムがWebセミナーにより開催されました。

郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議が主催、日本大学工学部が共催し、「医工連携」をテーマに、地域のものづくり企業向けのセミナーとして、2部構成で行われました。

フォーラムコーディネーターである日本大学工学部 教授 片岡則之氏の挨拶のあと、第1部として、株式会社マイステック 代表取締役 金井しのぶ氏、有限会社石山精機 代表取締役社長 石山武司氏から、県内ものづくり企業が連携することで医療機器産業への参入を果たした「ふくしま RENG プロジェクト」の取り組み等について、具体的な事例と共にご講演いただきました。

第2部では、総合南東北病院 臨床工学科 技士長 安藤啓子氏から、臨床工学技士の立場からみた医工連携の現状や、医療現場で求められる医療機器、医療用消耗品等について、病院での取り組み状況を交えながらご講演いただきました。



株式会社マイステック
代表取締役 金井しのぶ氏



総合南東北病院 臨床工学科
技士長 安藤啓子氏



令和2年12月1日より入居

- ・郵便番号：963-0201
- ・住所：福島県郡山市大槻町字西宮前 4-12
- ・代表者：栢本 直行
- ・TEL：024-954-6515 FAX：024-954-6515
- ・E-mail：kayamoto@hundred-inc.co.jp URL：www.hundred-inc.co.jp

－ 入居目的 －

主に実験用・研究用器材の開発を行います。
動物実験において、動物へのストレスを減らし動物福祉を高め、作業者への安全も確保し、実験の精度を向上させるための器具を開発します。また、現在開発中の平板ブレードを用いた攪拌装置や流体発生装置の試作を行います。
日大工学部、地元企業と連携しながら開発、販売の早期実現を目指します。

－ 事業内容 －

1. 実験用・研究用器材の開発・製造 2. 人用・動物用機能性食品の開発・製造 3. 一次産業の六次化産業創出

－ 代表者からの一言 －

私たちは常に時代の流れに漂い多様性に満ちた環境で影響し合って生きています。自然環境や人間社会の中で、あらゆるものと繋がり何を享受し合えるのかを念頭におき、事業に取り組んで参ります。福島から世界に向けて、これから必要とされより良い社会に繋がる製品・サービスを供給し続けます。

第20回産・学・官連携フォーラムを開催報告

去る11月9日、日本大学工学部50周年記念館（ハットNE）大講堂を会場に、第20回産・学・官連携フォーラムを開催しました。

今回は、新型コロナウイルス感染症対策として、WEBセミナー形式で行われましたが、会場での聴講も可能な講演とし、当日の会場には約40名の企業・団体等の方々が参加しました。

今回は「産学官イノベーションアクティビティ～福島県で活躍するベンチャー企業や産学官連携の取り組み～」をテーマに開催いたしました。

はじめに「産」を代表して株式会社エムケー技研 代表取締役 諸根理仁氏から、「エムケー技研の産学官連携の取り組みについて」の講演をいただきました。

その後、「学」を代表して日本大学工学部 機械工学科 教授 武藤伸洋氏からは、「アフターコロナを見据えたロボット技術」について、最後に、福島県商工労働部ロボット産業推進室 室長 鈴木章文氏から、「福島県ロボット関連産業の振興について」のご講演をいただきました。

参加された方々は、熱心に聴講され、講演に関する質問等も多く、活気のあるフォーラムでした。



株式会社エムケー技研 代表取締役 諸根氏の講演

郡山市あさかの学園大学 「サイエンスツアー」開催報告

恒例となった「サイエンスツアー」は、令和2年11月19日（木）、20日（金）、25日（水）に日本大学工学部54号館で開催されました。学園で学ぶ108名の生徒が参加しました。

講師は、日本大学工学部 建築学科 教授 浦部智義氏及び機械工学科 教授 片岡剛之氏、並びに当インキュベーションセンターの吉田裕二インキュベーションマネージャーが務めました。浦部教授は、天栄村湯本地区の古民家集落改修工事の事例紹介をし、片岡教授は医療従事者が聞き分けて患者さんの症状を探る様々な音を紹介しました。吉田マネージャーは、当機構が運営管理する「ものづくりインキュベーションセンター」の概要について解説しました。その後、キャンパス内にある「ロハスの花壇」や「アクアポニックス」などの施設を見学しました。



日本大学工学部 機械工学科 片岡教授の講演



ロハスの花壇など見学

今月のコラム (技術コーディネーター 井上明博)



今月は【現場力の向上】について掲載致します。ものづくり企業にとって重要な課題の一つです。現場力とは『自ら考え、課題を解決する力、品質や効率を上げる』こと。こうした共同体思考が日本の現場力を高めて来ました。かつて、日本の現場力は世界で一番。そんな認識はもう幻想なのかも知れません。(参照：日経ビジネス 2019.10.21 より)

『現場力が低下した背景』2つの要因・・・人手不足と技術伝承(人材育成)、経営環境の変化

正社員だけだった現場に、派遣や契約社員など、色々な立場の人が入り乱れ、1つのチームを作ることが難しくなったこと。経験値の高いベテラン社員が事前にトラブルの芽を摘んでいたケースもあったが、熟練社員の退職で技術伝承が難しくなったこと。

一方、短期志向の経営に走ることで、企業の稼ぐ力は高まり内部留保も厚みを増しました。しかし、本社が決めたルールに従うことを求めた結果、しわ寄せは現場に向かい、現場で創意工夫をする余裕も風土もなくなってしまったことが挙げられます。

現場力とは現場の一人ひとりが自ら考えて動くことで磨かれます。このような『現場力が低下した背景』を踏まえ、『現場力を高めるために』どうあるべきかを次回掲載致します。

